

# 公益社団法人 石川県言語聴覚士会

## 2022 年度 事業報告書

### 1. 言語聴覚士の技能及び資質の向上に関する事業

言語聴覚士としての知識・技術を高めるための支援として 17 研修会を行った。

昨年度まで新型コロナウイルス感染拡大のために延期となっていた援助的コミュニケーション入門研修は、感染対策を行って対面での実技研修を実施した。

また、ハイブリッド（Web と参集）での研修を 4 つ開催した。また、他団体が開催した研修会へもオンラインであったが 7 名の派遣を行った。

医療専門職（医師、歯科医師、看護師、理学療法士及び作業療法士等）、保健・福祉専門職（ケースワーカー、介護福祉士及び介護支援専門員等）、教育専門職及び心理専門職等と合同で、知識・技術の習得のための 5 つの研修会を開催した。

しかし、残念なことに新型コロナウイルス感染拡大のために 2 つの地域リハ塾の研修会と症例検討会（発表希望者無し）・地域リハリーダー養成研修（受講希望者少数）が中止となった。

助成（キャリアアップ支援）事業では 6 件の助成を行い、認定言語聴覚士 1 名、臨床神経心理士 1 名が誕生した。

#### 新人育成のための研修

- ・新入会員オリエンテーション 2022 年 5 月 22 日

方法：ハイブリッド（Web と参集） 場所：金沢市ものづくり会館

参加者合計：8 名（参加者：会場 6 名 Web 2 名）

概要：日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム・石川県言語聴覚士会会員研修プログラム等の概要や研修項目を中心とした説明、情報交換等を実施した。

- ・日本言語聴覚士協会生涯学習基礎講座 2022 年 10 月 9 日

日本言語聴覚士協会からの基礎講座用資料に基づき臨床における基本的な知識を得られる講座で主に新人（免許取得後 1～5 年）会員を対象として行った。

#### ① 「言語聴覚療法の動向」

方法：Web 研修 参加者：9 名（会員：6 名 会員外：3 名）

講師：1 名（会員 1 名）

概要と感想：言語聴覚士に期待される役割の中には、超高齢社会の日本において、健康寿命を伸ばしていくために地域での積極的な介護予防への貢献や発症後早期から退院後の実生活を見据えての訓練・指導があることなどを学びました。また、今回の講座を受講し、言語聴覚士として必要な方にいつでもどこでも適切で質の高いサービスを提供できる一員になりたいと感じました。そのためには個人のレベルアップが必要不可欠です。私は臨床経験が浅く知識も不足しています。協会の研修会や学会へ積極的に参加し専門性を高めるとともに、激変する社会の動きにも即時に対応できるように幅広い情報収集をして、患者様に適切なりハビリテーションを提供でき

るように自己研鑽に努めようという思いが一層強くなりました。また毎月の業務の1つとして記入していた実施計画書は患者様とご家族との信頼関係を構築する上で重要だというお話は新たな気づきを得ることができ、自分の普段の業務を振り返るきっかけとなりました。多方面と連携を取りながら患者様、そして地域に貢献できる言語聴覚士になれるように頑張りたいと思います。

## ② 「協会の役割と機構」

方法：Web 研修 参加者：9名（会員：6名 会員外：3名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：日本言語聴覚士協会の歴史や理念をはじめ、事業内容について学ぶことができました。学校や職場で日本言語聴覚士協会への入会を勧められ「勉強会や症例発表をする場」という程度で、具体的な事業内容を理解しないまま入会していました。私がイメージしていた勉強会は、言語聴覚士の知識・技術の向上に関することとして、生涯学習プログラムとして推進されていました。その他にも、国民の健康及び福祉の向上に関することとして、失語症者向け意思疎通支援者養成事業の推進や、言語聴覚士の教育・養成に関することとして、臨床実習指導者講習会の開催や養成施設の教員等講習会などを行っていることを知りました。さらに講座内では、どのように生涯学習プログラムに参加しポイントを取得していけばよいかを説明していただき、今後もホームページなどを確認しながら講座や研修会に参加し自己研鑽の1つとして活用していきたいと思いました。今回の講座で、日本言語聴覚士協会について抽象的なイメージだったものが、より具体的に理解を深めることができましたと思います。日本言語聴覚士協会の一員として、先述した自己研鑽を務めるとともに、徐々に協会への参加も行っていけたら良いなと思いました。

### ・援助的コミュニケーション入門 2022年10月1日

方法：参集 場所：石川県立中央病院 参加者：4名（会員：4名 会員外：0名）

講師：1名（会員外1名）

概要と感想：セラピストに求められる能力のひとつに患者様の話をしっかりと聴けるコミュニケーションスキルが挙げられると思います。「患者様とより一層良好な関係を築き上げるためにはどうしたらいいだろう」「先輩だったら患者様にもっと良い言葉をかけることができただろう」「不安が強い・言葉数が少ない患者様にはどのように接したらいいのだろう」と日々の臨床において感じることもあり、今回の会員研修プログラム「援助的コミュニケーション入門」に参加させて頂きました。具体的な事例・ロールプレイを通して、話を引き出す質問の仕方、相手の感情を受け止め言語化する方法、受容的な雰囲気を作り出しながら必要な情報を聴取するテクニックなどを教えて頂きました。初めはロールプレイに少し戸惑いもありましたが、患者様とセラピストになりきることでより学びを深め、体得することができました。また、患者様を知ろうという気持ちを大事にし、置かれている状況やペースに合ったコミュニケーションを図ることの大切を改めて感じました。これからも患者様に真摯に向き合い寄り添えるよう今回の学びを生かし、今後の臨床に励みたいと思います。

- ・症例検討会

※発表希望者がいなかったため中止した。

### 技術向上のための研修

- ・診療報酬改定ミニセミナー 2022年5月22日

方法：ハイブリッド（Webと参集）研修

場所：金沢市ものづくり会館

参加者：65名（会員65名 会員外：0名）講師：1名（会員1名）

内容：「2022年度の診療報酬改定について」

- ・日本言語聴覚士協会生涯学習専門講座 2022年8月20日

方法：Web研修 参加者：37名（会員：17名 会員外：20名内JAS以外3名）

講師：1名（会員外1名）

内容：「高齢者における高次脳機能障害：症候の特徴と対応」

概要と感想：高齢者の定義や高齢者の機能低下の様態など、高次脳機能障害に対する内容だけでなく、高齢者に起こりうる問題や対応についても学ぶことができました。

現在日本では、高齢社会です。私の少ない臨床経験ではありますが、担当したのは高齢者の方がほとんどでした。その中で認知症に該当する患者さんもいました。その際に、Ageismになっていたのではないかと感じました。検査結果を見て、認知機能低下を認めると、ゆっくり話すことや声の大きさなどに気を付けようと思いました。しかし、実際の対応として簡単な文構造や過剰な対応となり患者さんに不快な気持ちにさせていたのではないかと感じました。なので、今後は、高齢者に対する配慮は必要ですが、それが過剰にならないように配慮できるように心掛けます。私には臨床経験も知識もまだまだ足りません。これからは、今回の受講で学んだことを活かし、患者さんをよく観察し、機能訓練とともに、実生活に活かすリハビリテーションをできるように頑張ります。

- ・第11回石川県言語聴覚学術集会 2022年11月27日

方法：Web研修 参加者：40名（会員：26名 会員外：14名）

発表者：3名（会員：3名 会員外0名）

内容：「左側頭葉梗塞により聴覚失認が疑われた一失語症例」

「視床出血後特徴的な言語症状を呈した一例」

「気管切開患者の代用音声リハビリテーションに電気喉頭、カフ上発声、それらを併用する発話法を試みた症例」

- ・日本言語聴覚士協会生涯学習ポイント対象研修会 2022年11月27日

方法：Web研修 参加者：40名（会員：26名 会員外：14名）

講師：1名（会員外1名）

内容：「こころと脳は重ね描き」

概要と感想：今年度の特別講演も、去年に引き続き、高次脳機能障害、特に前頭葉機能障害・記憶障害の評価法やリハビリテーションを開発された鹿島晴雄先生にご講演いただきました。講演では、まず哲学者の大森荘蔵氏の「こころと脳は重ね描き」という言葉を紹介していただきました。その上で、「こころ」と「脳」は重ね描きの関係であり、「こころ」の現象は「脳」に繋がられる言葉で、また「脳」の機能障害は「こころ」に繋がられる言葉で表現することが大切であり、そのような言葉を共有することがこれからの課題であると教えていただきました。さらに、「こころ」と「脳」を治療という視点から重ね描き、認知リハビリテーションに繋がったという前頭葉梗塞の症例もご紹介いただきました。

「こころ」と「脳」の知見が互いに重要な手がかりとなるのであり、両者を対応させ、すり合わせて、「こころ」と「脳」の両方から治療的アプローチをするという先生のお考えは、私にとっては目から鱗であり、とても興味深く拝聴しました。去年度に引き続き、このような貴重なお話を伺う機会をいただけたことを大変嬉しく思います。

・地域リハビリテーションリーダー養成研修会

※参加希望者、受講対象者少数の為中止した。

・会員研修プログラムベーシックコース研修会

① 「医療・介護・社会福祉」2022年10月30日

方法：Web研修 参加者：4名（会員：4名，会員外：0名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：診療報酬・介護報酬・次々年度（2024年度）同時改訂についてお話し頂きました。医療分野では保険診療のしくみ、疾患別リハビリテーション料や摂食機能療法等の報酬体系や見直し点、各病棟の施設基準などについて、介護分野では訪問・通所リハビリテーション、介護老人保健施設、介護医療院の報酬制度等について詳細に解説して下さいました。1日で算定した単位数の計算方法を教えて頂き、自分の労働が報酬に結びついている実感が湧きました。算定業務はカルテ記載や患者登録時の慣れた作業ではありますが、制度についての理解はまだまだ不十分である点が多く、後輩にする際にしっかり説明できるよう、折を見て学びを深くしていこうと思います。次々年度（2024年度）同時改訂では、2025年問題を見据えて大幅な改訂がなされるとお話しされていました。講師が情報収集なさっているサイト等もご紹介頂きましたので、自分から積極的に調べてみることもやってみようと思います。

② 「機能性構音障害」2023年3月5日

方法：Web研修 参加者：14名（会員：14名，会員外：0名）

講師：1名（会員外1名）

概要と感想：機能性構音障害の基本的な臨床の流れから臨床における確認・留意点、そして先生が実際に行われている地域活動について話を聞くことが出来ました。

初回評価で復唱能力を把握することの重要性や、指導中練習に興味を持ってもらうために遊びながら構音点を意識してもらうという工夫点だけでなく、話し方や構音を指摘され寡黙になってしまうケースもあるため、精神的なフォローやプラスのフィードバックが重要であるということ学びました。また、聴覚障害の有無やご家族との認識の違いなどが構音の改善の程度に影響を及ぼす事があるため、ST側が思い込みをせずに、聴力の確認を行うことや、保護者の了解度や随意性など言語的要素以外の部分にも着目する必要があることも学びました。就職後、小児治療に関わる機会が少なかった私にとって、臨床の基本的な流れや留意点を振り返る良いきっかけとなりました。

### ③ 「摂食嚥下障害」2023年3月21日

方法：Web研修 参加者：12名（会員：12名，会員外：0名）

講師：1名（会員1名）

概要と感想：準備期から咽頭期の機能面ならびに、嚥下評価にて見るポイント、目標設定、プログラムの立案など多くのことを学ぶことが出来ました。また、現病歴、既往歴、患者が使用している薬剤から嚥下障害が起こった要因を分析する必要があり、触診や頸部聴診、発声、構音面からも嚥下に関する情報が得られることを知りました。情報収集や、評価、分析などに不足があると、その患者に応じた適切な嚥下のリハビリテーションを実施することが出来ないと思います。私は、1年間の間に嚥下障害のある方を多く担当しましたが、情報収集や、評価、分析が未熟であることや、嚥下に関する知識が不足していると感じました。今後臨床にて、様々な病態の患者に応じた適切な嚥下リハビリテーションを、リスク管理を行いながら実施していくために、今回学ばせて頂いた内容を再度確認することや自身で嚥下に関することを勉強し知識を深めていきたいと思いました。

- ・吃音相談・研修システム体制の運営（臨床施設調査、研修会、相談・紹介システム）

内容：吃音の臨床や支援等に関する研修及び相談・紹介に関する情報提供等を実施した。

### 他団体が開催する研修会への派遣

- ・失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会 2022年10月22・23日  
方法：Web研修 参加者：3名 修了者：3名
- ・JIMTEF 災害医療研修会 2022年6月4日～7月10日  
方法：Web研修 参加者：3名 修了者：3名
- ・診療報酬改定説明会 2023年3月12日  
方法：Web研修 参加者：1名

### 関係団体と合同で行う研修会

- ・第20回北陸言語聴覚学術集会（富山開催） 2022年10月16日  
方法：Web研修 参加者：98名（会員：44名 会員外：54名）  
発表者 8名（会員：1名 会員外：7名）

内容：「矯正右利き右後頭葉内側面損傷により生じた視覚失認の一例」

- ・石川県訪問リハビリテーション実務者研修会 ①2022年7月24日, ②2022年12月10日

①「インクルーシブな在宅支援～伝えたい想いに寄り添え・支え・繋ぐ」

1. 講演

「コミュニケーション支援～支援機器と事例を交えて～」

「失語症者とのコミュニケーションを中心としたコミュニケーション支援」

方法：Web研修 参加者28名（会員8名, 会員外20名：PT7名 OT13名）

講師2名（会員1名, 会員外1名）

概要と感想：今年度は当会が主幹となり、在宅でのコミュニケーション支援についての研修会を実施しました。はじめに金沢福祉用具情報プラザ 作業療法士 城野友哉氏より「コミュニケーション支援～支援機器と事例を交えて～」と題して、実際の支援機器のデモンストレーションや活用方法、在宅でのスムーズな導入方法などをお話いただき、多職種で在宅での円滑なコミュニケーションを取れるような連携が必要だと感じました。次に「失語症者とのコミュニケーションを中心としたコミュニケーション支援」と題して、当会会員の芦城クリニック 田畑美香会員より、コミュニケーション障害や失語症の方の想いをとても分かりやすく説明していただき、失語症者向け意思疎通支援事業についても会話技法を交えながら、参加者と共に理解を深めました。

②講演会

1. 「今後の訪問リハの展望」・「令和6年の診療報酬・介護報酬の同時改定に向けた動向」

2. 「在宅での食支援～セラピストには何が出来るか?～」

方法：Web研修 参加者31名（会員8名, 会員外23名：PT12名 OT11名）

講師2名（会員1名, 会員外1名）

概要：在宅りはびり研究所・株式会社らいさす 理学療法士 吉良健司先生をお迎えし、今後の在宅支援（訪問リハビリテーション）の未来や制度改定に関するお話しをしていただきました。また、当会会員より「在宅での食支援」について実践を交えながら意見交換も行った。

- ・地域リハ塾

石川開催 開催中止

※新型コロナウイルス感染防止のため集合開催が行えず開催を中止した。

富山開催 開催中止

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止になった。

福井開催 2023年2月18日

「『いまいち伝わらない?』～他職種、家族に何をどう伝える?～」

方法：Web研修

参加者：13名（会員：4名, 会員外9名：富山2名, 福井7名）

- ・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会、

県リハビリテーション共催の研修会

市町事業に係るリハビリテーション専門職育成研修 ①PTOTST 共通導入研修

2022年11月19日

講演

「共生社会における地域リハビリテーションの展開」

「石川県における県リハビリテーション支援センターの紹介」

「住み慣れた地域で『したい生活』ができることを実現するために私たちにできること」

方法：ハイブリッド形式（Webと参集による）

場所：石川県リハビリテーションセンター 4階

参加者：34名（会員3名、会員外31名：PT13名、OT16名、他2名）

講師3名（会員外3名）

概要と感想：「共生社会における地域リハビリテーションの展開」「石川県における県リハビリテーション支援センターの取り組み」「住み慣れた地域で『したい生活』ができることを実現するために私たちができること」のテーマの講演でした。第1部の宮永先生の講演で特に印象深かったのは地域ケア会議の話でした。地域ケア会議では課題解決が求められる事。そして生活実態をきちんと捉えることが課題を明確にすると言われていたことです。その他にモニタリングについて「一つひとつの事例をしっかり追うことで関係者間の成功体験を積み重ねていかなければ何も残らない」と話されており、またリハ職についてアドバイザーとして関わるだけではケースを追えず限界があると言われていたことが印象に残りました。第2部ではコミュニケーション機器の備品の強化を行った報告が興味深かったです。第3部ではグループワークもあり、様々な意見から地域リハビリテーションとしての何をすべきか考えさせられました。

- ・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会主催の研修会

市町事業に関わるリハビリテーション専門職育成研修② 2023年3月5日

「退院支援から市町・地域の介護予防・自立支援を知ろう～医療機関と地域それぞれの取り組み紹介」

方法：ハイブリット研修（Webと参集による）

場所：石川県リハビリテーションセンター 4階

参加者69名（会員7名、会員外62名：PT15名、OT34名、他13名）

概要と感想：はじめに連絡会の取り組み紹介があり、その後中能登町、能美市、金沢市の各行政やリハビリ職種より概要や実際の症例を交えての実践がありました。また、グループディスカッションでは質疑応答や意見交換がありました。患者さんが実際に地域へ戻ってからの生活全体をみていくことが大事だと思いました。また、それぞれの市町に合わせた地域の特性もあり勉強になりました。肺炎などの内部疾患で入院中にリハビリの介入がなかった方が在宅復帰した後にフレイルになってしまうことをどのように拾い上げて行くかの課題も上がりました。高齢者の割合が増加していく中で通所型サービスなど通いの場への移手段など様々な問題も感じました。ま

た、通所・訪問型サービス終了後に切れ目無く一般介護事業の利用や百歳体操などへ「つなぐ」ことの重要性も感じました。そのためにはまず地域での利用可能なサービスを知ることが大切だと思いました。

・石川 JRAT 研修会

「避難所運営から支援活動について」

方法：Web 研修

①講演「避難所支援における活動の実態」2023年1月17日

参加者：52名（会員：4名 会員外：48名）

②講演「オンライン HUG（避難所運営ゲーム）」2023年2月25日

参加者：38名（会員：3名 会員外：35名）

③講演「石川 JRAT の活動報告」2023年3月14日

参加者：41名（会員：9名 会員外：32名）

概要及び報告：研修は3回シリーズで行い、今年度もオンライン開催となりました。

今年度も避難所運営ゲーム(HUG)を通して学ぶ災害リハビリテーションのオンライン実習も行いました。今年度は地震だけでなく、水害や雪害もあり、年々いろいろな災害に対して石川 JRAT としても敏感に反応することが多くなってきてお感じしております。ST士会の災害WGではDMAT実習演習の際にLINEでの災害時安否確認、サービスの模擬訓練も実施しました。

**助成**

・キャリアアップ支援事業

申請者6名（会員：6名、 会員外：0名）

助成 6名

使用研修会名

① 臨床神経心理士資格試験

② 認定言語聴覚士（言語発達障害領域）

③ NPO 法人日本インクルーシブ教育研究所第7期学習・発達支援員養成講座

④ 第14回 JIMTEF 災害医療研修ベーシックコース（3名）

**2. 県民への言語聴覚療法等に関する講座開講及び情報の普及・啓発及び支援に関する事業**

ア 言語聴覚療法が医療・介護・保健・福祉・教育の増進に寄与することを示し、関係団体等と連携の上、県民に対し「言語聴覚の日」のイベントとして感染対策を行いながら、言語聴覚士の仕事を紹介するパネル展示を実施した。「川柳コンテスト」は、言語聴覚コミュニケーションや摂食嚥下に障害のある方や、その方のご家族、支援者の方に日常生活で感じたことを川柳にして発表していただき、会場とHP上で投票を呼びかけた。

また、「ことばの専門家に聞いてみよう！ ことばの発達 子どもの育ち」と題し県民公開講座（オンライン公開講座）を通じて普及・啓発を行った。

毎年開催される介護フェスタと「医療・介護・栄養のお仕事まるわかり辞典2022 進学と体験の



1day フェア」へのブース出展を行い体験・パネル展示・相談会を実施した。

今回初めて当会主催の『小児教育相談会』を少人数だが実施することが出来た。

今年度も石川県より委託を受けて失語症者向け意思疎通支援者養成事業として、『失語症者向け意思疎通支援者養成講習会』を「新型コロナウイルス等の飛沫・接触感染対策マニュアル」に沿い当事者講師も交え合計 40 時間（全 9 回）開催し 9 名が修了し「失語症者向け意思疎通支援者」が誕生した。また、2023 年 2 月 12 日に失語症者向け意思疎通支援者フォローアップ研修会も実施することが出来た。

- ・「医療・介護・栄養のお仕事まるわかり事典 2022 進学と体験の 1day フェア」へのブース出展

2022 年 7 月 24 日

会場：金沢駅もてなしドーム地下イベント広場

内容：体験・パネル展示・相談

参加者：3 名（会員 3 名）

来訪者：9 名

相談者：9 名

体験者：1 名

開催報告：今回が初めての出展になります。約 30 箇所のブースがあり、感染対策のためマスクとフェイスシールドを装着、会場は蒸し暑く汗ばみながらの対応となりました。相談や体験に来られたのは主に中高生で、期待に胸を弾ませた母娘や一人真剣に話を聞く女子高生、戸惑いを隠せない無口なカップルなど計 9 名でした。ほとんどの方は「言語聴覚士とは」の説明から始まり、体験以外では福井医療大学の先生方と協力しお互いのブースを紹介したり、学校のパンフレットをお渡ししたりしました。どうしたら ST の魅力を伝えられるかを考えるうちに、学生の頃を思い出し初心に戻った 1 日でした。

- ・「言語聴覚の日」のイベント 2022 年 8 月 28 日

会場：学びの杜ののいち カレード オープンギャラリー

内容：パネル展示・川柳コンテスト

開催時間：10：30～15：00

参加者：8 名（会員 8 名）

来訪者：30 名

開催報告：2007 年より始まった「言語聴覚の日」のイベントも今年で 16 回目となりました。今年も、昨年と同様に、学びの杜ののいちカレードにて開催させていただきました。コロナ禍以前は、体験コーナーやクイズコーナー等も行っておりましたが、このコロナ禍の状況の中では難しいと考え、今年も展示コーナーや川柳コンテストを中心に行いました。川柳コンテストは、全国からたくさんの方々に応募してくださり、270 作品が集まりました。どれも素晴らしい作品で恐縮ではありましたが、今年は見やすさも配慮し、広報部の方で選定して 50 作品を展示させていただきました。来場者数は 30 名ほどでありましたが、展示コーナーや川柳を時間を掛けてじっくり見てくださる方もたくさんおられ、地域の方々に言語聴覚士の関わる障害や仕事内容などに

ついて、知っていただく場になったのではないかと考えています。これから、このコロナ禍の状況が良くなることを願い、来年もまた無事開催できればと考えています。お忙しい中、川柳コンテストの応募に協力して下さった皆様、告知に協力していただいた皆様、どうもありがとうございました。

・川柳コンテスト

方 法：県内外へメール等にて募集を行った。

投票は言語聴覚の日のイベント会場と当会 HP（Web 上）で行い9月末に HP 上・ニュースレターで結果を報告した。

募集期間：2022 年 7 月 1 日～8 月 6 日

投 票：2022 年 8 月 28 日～9 月 18 日

結果報告：2021 年 9 月末日

作品数：応募総数 270 句 掲載数 50 句

表彰：金賞 1 名 誤嚥との ご縁は是非に ご遠慮よ

銀賞 2 名 伝え方 あなた次第で 無限大  
聞こえたよ ゆっくり発した 「ありがとう」

銅賞 3 名 妻の名を 呼べてリハビリ やる気出る  
歯がゆさを ぐっと飲みこみ 待つ言葉  
百薬の 聴は孫らの 笑い声

入選 5 名 食事中 足を地につけ 食べましょう  
少しずつ 発する言葉 自粛せず  
喋らずも あなたらしさを 真ん中に  
難聴を 気付かせぬよう 生返事  
言葉無く 心で伝わる 「ありがとう」

・令和 4 年度いしかわ介護フェスタへのブース出展 2022 年 10 月 8 日

会場：石川県産業展示館 3 号館

内容：体験・パネル展示・相談

参加者：7 名（会員 7 名）

来訪者：約 60 名

・金沢市フレイル予防事業、健康づくりフェア出展 2022 年 9 月 24 日

会場：金沢健康プラザ大手町東館・西館

内容：ST の紹介・体験・相談

参加者： 4 名

来訪者： 27 名

概要と感想：『自分の健康は自分で守る』という意識の啓発と実践活動を広く金沢市民にひろめ

るために、金沢・健康を守る市民の会主催で毎年開かれています。

当日は、金沢市医師会・歯科医師会・薬剤師会等による専門家相談や、看護協会・栄養士会等による健康相談、嚥下機能チェック、フレイルチェック体験、物忘れチェック、体力測定、血液・尿検査、内蔵脂肪量チェック、骨密度測定、鍼灸マッサージ体験、福祉介護用具展示、AIによる歩行分析など多岐にわたる内容の他、子ども遊びや、クイズラリー、非常食の紹介、金沢城公園ウォーキングなど、24の共催団体がそれぞれ展開して多くの市民が訪れ賑わいました。

当会は、フレイル予防関連コーナーにおいてPT・OTと共にブース出展しました。紹介ビデオを通して言語聴覚士の業務を伝え、また、”お口周りのフレイル予防”ミニレクチャー・滑舌・嚥下の相談や資料の提供などを行いました。オーラルフレイルを知っている参加者もいて、発語がしにくい、聞こえにくい、飲み込みにくいなどの相談を受けました。

様々な関連業種が集まり共に市民の健康に寄与する良い機会だと思いました。

・ 県民公開講座 2023年2月5日

「ことばの専門家聞いてみよう！ ことばの発達 子どもの育ち」

方法：Web研修

参加者：228名

(会員32名、会員外190名：ST36名・PT2名・OT3名・Ns7名・保育士33名・教職員29名・社会福祉士6名・相談員13名・その他61名：無記名6名含む)

講師1名(会員外1名)

講演

①幼児期・学童期の言語発達・コミュニケーションについて『子どもの心とことばの育ち』

②特別支援教育について『自分らしく生きることと特別支援教育』

概要と感想：1部では「ことばの発達」発音について、脳のしくみや遊び方・声かけの方法などを説明された。特に声かけにおいては、表情や声のトーンなど歌うように話しかけると良いなどの内容であった。第2部では特別支援教育、発達障害と発達障害と特別支援教育、子どもの発達のとらえ方、発達障害があってもなくても子どもの育ちに必要な関わり、望ましい関わりかた、ことばかけについての話であった。子ども一人一人関わり方は一緒ではなく、その子に合わせて変えていかなければならない。また特別支援について、「分からない」ことが「分からない」といえる環境づくりではないだろうかという話が印象的であった。

・ 小児教育相談会 2023年2月19日

会場：ものづくり会館

内容：内容：3～4歳児のことばの遅れ等の相談

参加者：4名(会員4名)

相談者：9名(4家族)

内容：この催しは数年前まで石川県ことばを育む親の会が加賀地区、金沢地区、能登地区で発達相談を行っていたものを当会で可能な範囲で引き継いでいきたいと思い今年度実施しました。今

回は県士会として初めての事業となり、対象を金沢市の未就学のお子さんのみとして案内しましたが、予定していた枠より多くの参加希望の連絡を頂きました。当日は3～4歳のことばの遅れの主訴など4件の相談対応を行いました。来年度も可能な範囲で持続可能な事業として継続していきます。

・失語症者向け意思疎通支援者養成事業（石川县委託事業）

①失語症者向け意思疎通支援者養成講習会（計9回開催）

開催日：8月7日・21日・9月4日・17日・10月2日・16日・29日・11月12日・20日

場所：金沢市ものづくり会館 能美市防災センター

受講者：16名

講師：延べ17名（ST15名 PT1名 県職員1名）

スタッフ、チューター：延べ36名（ST35名 OT1名）

当事者講師：延べ30名

修了者：9名（失語症者向け意思疎通支援者）

講義内容：（1）失語症とは何か

（2）意思疎通支援者の役割、心構え及び倫理

（3）コミュニケーション支援

（4）外出同行支援

（5）身体介助

（6）その他、失語症者の意思疎通支援に必要な事項

失語症友の会会員当事者、会員以外の当事者の実習参加、意思疎通支援者の実習参加を行った。

開催報告：令和4年度石川県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」は8月7日（日）～ 11月20日（日）、全9回の日程で開催されました。今年度は過去最高の19名の応募がありましたが、辞退が数名あり、16名での開始となりました。その後もコロナ禍で辞退や必須科目の欠席者が出たことから修了者は9名となりました。講義では失語症の基礎知識の他に失語症者の生活やニーズ、倫理について学びます。実習ではまずSTが模擬失語症者となり、会話練習を行った後、失語症の方と会話を行います。身体介助についても講義や実習があります。また、外出同行支援実習は昨年度に引き続き能美市防災センターで実施しました。地震・強風・初期消火等の体験や3D映画の視聴の後、当事者講師と受講生が感想を話し合いました。受講者が防災センターの職員の方の説明を当事者へ要点筆記で伝えている姿は実際の支援活動のようでした。受講生対象のアンケートには「他の受講生が皆さん熱心で、自分もがんばらなければ、と思った。」「軽い気持ちで受講したが、失語症の方とのコミュニケーションの基礎を学び、当事者からの学び、家族に失語症の方がいる方の話など本当に勉強になった。」「テキストだけでなく、当事者と対面できた貴重な内容だった。会って話して理解が深くなったと思う。」など熱い感想が寄せられました。当事者講師の方も「また来年も参加したい」という意見が複数の方から聞かれました。受講生の皆さんが回を重ねるごとにコミュニケーション技術を使って当事者講師の方との会話が上達していく様子や、当事者講師が会話を楽しまれながら担当STが知らないことまで話している様子

など、STにとっても日々の臨床や当事者との関わり、周囲への情報提供の大切さ等を振り返る貴重な機会となりました。また、コミュニケーションの持つ力を改めて感じました。

## ②失語症カフェ 開催中止

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止した。

### ・会のホームページの刷新・管理運営

ホームページの更新、内容充実を図った。また、メーリングリストの管理も行った。

イ 自治体や他団体が開催する研修会（オンライン）、相談会及びイベントに講師を派遣し、県民に対する専門職としての支援を行った。

- ・石川県立看護大学講義
- ・石川県失語症友の会例会
- ・石川県脳卒中リハビリテーション協会 言語リハビリ教室
- ・聞こえの相談会（白山市、能登地区）
- ・特別支援学校の医療等外部専門家との連携事業  
(珠洲、輪島、七尾、明和、ろう、小松、小松瀬領、錦城、盲)
- ・加賀脳卒中地域連携協議会
- ・2022年度学校教育連携担当者連絡協議会
- ・石川県地域リハビリテーション推進検討会議
- ・石川県在宅医療推進協議会

## 3. 言語聴覚療法の研究・調査に関する事業

- ・相談局アンケート調査 2022年6月2日～6月15日  
VE・VF検査実施施設：15施設（能登：3施設 石川中央：7施設 南加賀：5施設）  
VE検査のみ実施施設：2施設（石川中央：2施設）  
VF検査のみ実施施設：3施設（石川中央：2施設 南加賀：1施設）  
訪問リハ実施施設：21施設  
能登：1施設（介護：1施設 医療：0施設 自費：0施設）  
石川中央：16施設（介護：16施設 医療：13施設 自費：2施設）  
南加賀：4施設（介護：3施設 医療：3施設 自費：0施設）
- ・2022年度小児の集い 2022年8月10日  
方法：Webで実施  
参加者：14名（会員14名、会員外0名）  
内容：情報交換と今年度の取り組みについて

## 4. 言語聴覚療法に関する刊行物の発刊に関する事業

- ・石川県言語聴覚士会年報の発行 2022年5月22日  
投稿者数：29名

- ・ニュースレター（NL）の発行（年4回）  
発行月：6月 9月 12月 3月

## 5. 関係団体との連携及び協力に関する事業

- ・北陸地域リハST連絡会  
開催日：2023年2月18日  
方法：Web会議  
内容：今後の活動について協議した。
- ・石川県訪問リハビリテーション連絡会  
開催日：2022年6月27日、10月3日、11月18日、12月10日  
方法：Web会議  
内容：訪問リハ・地域リーダー会議報告、訪問リハ実務者研修会の研修の日程や内容について協議した。
- ・石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会  
開催日：2022年5月20日、6月21日、7月19日、9月13日、10月7日、12月8日、2023年2月2日、2月17日、3月27日  
方法：Web会議  
内容：県リハビリテーションセンターの協力を得て、地域ケア会議・介護予防事業に関する研修会や実践報告会の企画運営を行った。研修会修了者をリストアップし、市町事業への協力者登録を行った。
- ・石川 JRAT 会議  
開催日：2022年4月21日、7月12日、8月26日、9月5日、9月28日、11月7日、  
2023年1月17日、2月19日、2月25日、3月14日  
方法：Web会議  
内容：幹事会、小委員会が各々開催され、石川 JRAT 研修会の準備、県との協定に向けた策定作り、石川 JRAT 隊員の登録に向け、会長・副会長が各病院・施設への協力依頼を行った。また、幹事会研修会（9月27日・10月11日）にも参加した。  
11月26日に『中部ブロック DMAT 実働訓練』が行われた。  
県庁での調整本部訓練と同時に行われた、「石川県リハビリテーションセンターの活動本部訓練」へ調整本部（1名）・活動本部（2名）に会員が参加した。

## 6. 福利厚生事業

- ・会員懇親会・交流会 開催中止

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止した。

- ・企業展示 随時

内容：MLにて企業おすすめの動画（レシピ動画や商品の使用法のデモンストレーション、新商品のプレゼンなど）の配信を実施した。また、NLにも投稿した。

2022年5月22日：「定時社員総会」にて3社の商品プレゼンテーションを実施した。

2022年11月27日：「石川県言語聴覚学術集会」にて、3社がオンラインプレゼンテーションを実施し、7社が抄録集の巻末付録での商品PR掲載を行った。

- ・会員向け災害時安否確認

登録 通年 2023年3月31日現在123名が登録した。

模擬訓練 2022年11月26日 参加者 73/123名

その他：2022年6月19日 能登沖を震源とする震度6の地震が発生。能登地区を中心に安否確認を実施した。

## 7. 組織の運営・管理

- ・定時社員総会 2022年5月22日

方法：ハイブリッド（Webと参集）

場所：金沢ものづくり会館

出席者：104名（委任状：79名含む）/159名

- ・理事会 第1回 2022年4月24日・第2回 2022年7月10日、第3回 2022年9月11日  
第4回 2022年11月13日、第5回 2023年1月15日、第6回 2023年2月26日  
第7回 2023年3月12日

- ・局・部・WGミーティング 適宜